
相談屋

鯨金団

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

相談屋

【コード】

N2196G

【作者名】

鯉金団

【あらすじ】

私は悩み事を聞いて解決する事を生業としています。今日はどのようなお客様が来るのでしょうか？

私は路上に店を構えて悩んでるものの悩みを聞いて解決する事を生業としている。

人呼んで「スーパリーカスカウンセラー」略してスイカ。

今日は丑三つ時に悩み事を抱えているお客様が私の店にやってきました。

私はまず始めにお客様の名前を聞くことにしている。

名前を知る事は関係を築く第一歩ですからね。

「これはいい名前ですね。」

そう誉めると彼女は喜んでくれた。

次に私は彼女の悩みを聞くことにした。

「あたし、普段自分を出す事が出来ないんです。」

自分を出す事が出来ないという彼女に私は確かに出す事が出来ないよなと思いつながら、そう思うのはなぜかを聞く。

「何をするのでも人の真似ばかりで、本当の自分を表に出そうと何度もするんですけど実行しようとする怖気づいてしまっ……。」

彼女が訳を話してくれている途中で涙声になってしまった。

「自分を出そうとする努力はしているという事ですよ？何度も試す事は良い事です。」

私はすぐに彼女を励ます事を言う。

そして、今ここで自分を出す練習をする事を勧める。

彼女は私の勧めに従って自分を出す練習をする。

「始めに、笑顔を作ってみましょうか？」

彼女は相手に自分の笑顔を見せた事が無いのかぎこちない。

「もつと口角を上げて、にーってそうそう上手い上手い。」

良い笑顔だと思う。

「次に、驚いた顔を作ってみましょうか。」

「驚く顔ってどんな感じでしょうか？」

彼女は聞く。

「口を大きく開けて『あっ』って声に出してみても？それが驚いた時の顔だよ。」

彼女は上手く出来ずに「あっ」と繰り返している。

私は彼女に動作も一緒に入れたらと勧める。

「例えばここに自分の探してる物があつたとして、『見つけたっ！

！』って感じで指差して『あっ』言ってみて？」

例えが悪かったのか、まだ出来ない。

「こんな感じだよ。一緒にやってみて。」

彼女は今度こそと意気込んで驚いた顔を作る。

今度は上手く出来た、中々良い驚きの顔だったと思う。

しかし、彼女の顔は相談しに来た時よりも暗くなっていた。

「上手く出来てましたよ。どうしました？」

私が彼女にそう言うのと彼女は「今の練習で解りました。あたし、真似しか出来ないんです！！！」

彼女はそう叫ぶと突然走り出した。

「ちよつと、相談料まだ、ちよ……。」

私が全て言い終える前に彼女は走り去ってしまった。

そりゃ無いよ鏡子さん……。

私は「スーパーイカスカウンセラー」略してスイカ。

どんな「もの」の悩みでも聞いて解決する事を生業としています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2196g/>

相談屋

2010年12月4日14時51分発行